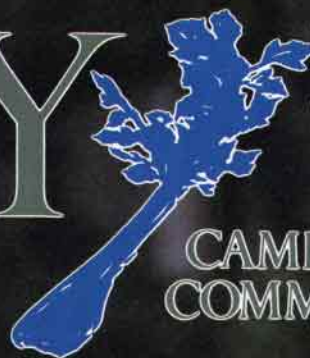
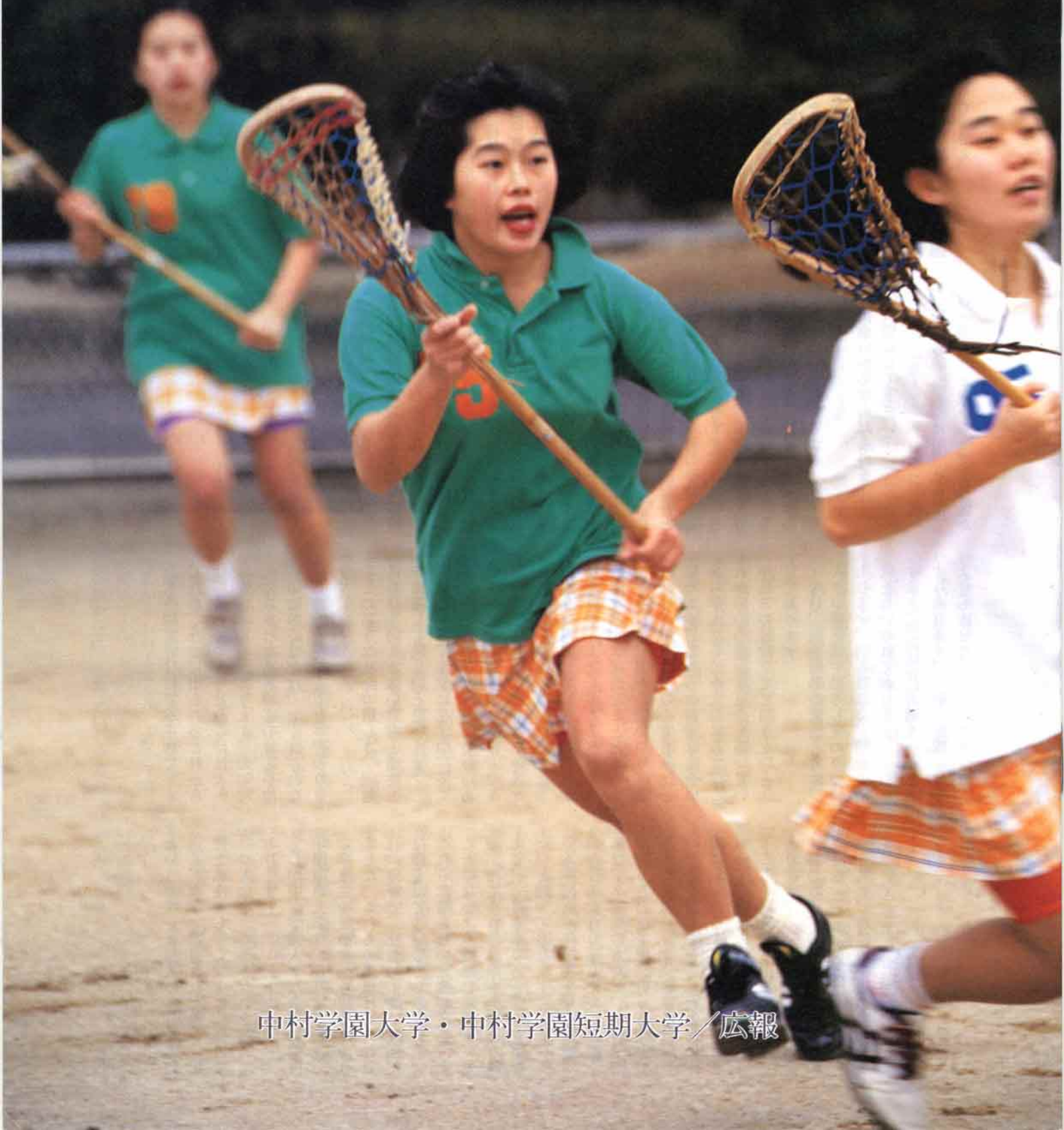


# CELERY



No.17  
1994

CAMPUS  
COMMUNICATION



中村学園大学・中村学園短期大学／広報



# 卒業生の皆さんへ贈るこゝろば

社会の厳しさに立ち向かえる

意志と強さと理性の涵養を

学 長 山 元 寅 男

生涯学び続ける気持ちを  
持ってください。

このたびはと卒業誠におめでとうござります。これまで、二年間あるいは四年間、本学での勉学の甲斐あって、無事卒業されますことを心からお喜び申し上げます。

ご自身の喜びはもちろんのこと、皆さんの大学生活を今日まで励まされ、暖かく見守り支え、卒業の日を待ち望んでこられたご家族の皆様方のお喜びも、ひとしおかと思ひます。

さて、皆さんは、本学で勉学に励まれた期間には、世界の政治情勢のみならず、国内情勢も極めて不安定となり激動の日々を目のあたりに体験されました。また、わが国の経済情勢も悪化の一路をたどり、その影響を受けて、就職事情は大へん厳しいものとなりました。このような不安定な時期に皆

さんは社会に出ていかれるわけですが、これまで、社会の厳しさから隔離された大学という特殊な環境の中で毎日をご過ごされてきましたから、はじめは戸惑いや驚きもあることと思います。

しかしながら、皆さんは、学園祖中村ハル先生の素晴らしい建学の精神に基づく教育を本学で受けられ、知識と技術を習得され、さらには、人間の根幹にかかわる心を体得されました。このような学識と見識をもって社会に出て行かれたならば、どのような場面に遭遇しても、立派に対処することができると信じております。

ただ、大学で学ばれた知識や技術は、それぞれの専門領域における基礎となるもので、これらだけでは社会で活躍するのに十分とはいえません。これらの基礎の上に、皆さん自身で、それぞれに固有の知識や技術を積み重ねていかなければなりません。



各専門分野における学問や技術の進歩はまことに目覚ましく、これらの新しい知識や技術を消化し吸収して自分のものとするためにも、大学で学んだと同様の学習態度が生涯にわたり求められております。もし、そうでなければ、真に社会が求める専門家となることはできず、時代に対応できない陳腐な知識や技術の持ち主として次第に社会から疎外されることになるでしょう。今日、生涯学習という言葉が社会に定着しつつある所以もここにあります。このことを十分認識され、中村ハル先生のご遺訓「努力の上に花が咲く」を今一度想起され、自己研鑽を積んで頂きたいと思ひます。

出会いから学んだものを  
大切にしてください。

先にも述べましたが、これまで「学生」ということで、社会か

らも特別寛容な目でみられてきましたが、社会に出られるこれから、皆さんをみる社会の目は大へん厳しいものがあります。大学時代に許されたある程度の甘えや他への依頼心などは、全く許されないものと覚悟する必要があります。

このような社会の厳しき、困難にも立ち向える強い意志と理性とを涵養して欲しいと思ひます。

皆さんは、本学に在学中、多くの先生がたや学友との出会いがありました。また、学外実習、ゼミ旅行、課外活動などで多くの人々との出会いがありました。これらの出会いを通して、人の心に対する感動や、人としてあるべき姿勢、態度などを学ばれたことと思ひます。それは、温かい思いやり、助け合い、協調などの心であったと思ひます。これらの貴重な出会いから学んだものを大切に、これからの心豊かな社会を築いていけるのに役立てて頂きたいと思ひます。

今日、社会情勢の変動と共に、人々の価値観や思考も変わりつつあります。物も豊富で、飽食の時代ともいわれております。ややもすると「無為徒食」の道を歩む恐れすらあります。「肥った豚になるよりも痩せたソクラテスになれ」

せんが、男性ほど組織に帰属していない女性たちは、突然発見するのです。

あら、わたしの人生が減ってしまっている……でもわたし、何をしてきたのかしら……。

このでの悩みの、何と多いことでしょう。

わたしは恋愛小説を書いていますが、男と女の摩擦熱から溶け出す人間の本性を、一貫して書き続けてきたわけですが、――わたし、先生の小説を読んで、これまで一度も本物の恋をしてこなかった気がするのです。わたしって一体、何をやっていったのかしら……。

という読者からの手紙をいくつも頂きます。平凡だが恵まれた恋愛をし、結婚もし、子供まで持った三十代の主婦から、こうした手紙を貰うと、この人は「本物の恋」に恵まれなかったわけではなく、かけがえのない人生の経験が無自覚に生きてきたことがわかります。つまり、今日の一日は、消費されて失くなる一日だ、という自覚がないまま、三十代半ばまで来てしまった、というわけです。

これでは、客観的にどんなに恵まれた状況を生きてても、熱のこもらない、感動のない人生になってしまいます。

旅立つ若者に、ふさわしくない言葉かもしれないですが、あえて言いたいのです。

わが中村学園大学ならびに中村学園短期大学は、これまで数多くの卒業生を社会に送り出して参りました。これらの先輩は、それぞれの分野で、社会的に高い評価と信頼を得て活躍しておられます。これら素晴らしい先輩の名を汚すことのないよう精進して頂き、先輩がたてられた名声を更に乗り越えて、一層本学の名を成して頂きたいと願っております。

本学園も本年で四十年の歴史を刻むことになりました。この四十年は、卒業生の方々に、中村学園の誇りと自信を植え付ける歴史であったと思ひます。皆さんは、この歴史を刻んで来られた先輩の仲間に入られることに喜びと自信をもって、今後の社会でご活躍されることを期待して止まない次第であります。

終わりに、皆さんのこれからのご健勝とご多幸を祈念いたしますと共に、母校の一層の発展をご支援下さるようお願いいたします。

人生である、と。

いまの皆さんに「死」の認識は無理です。でも、せめて「減少」の認識を。そして、先で失われた時間を振り返って、いったい自分は何をしていたのだ、と困惑しなくてすむように。

何かタメになることを、と望んでいるわけではありません。肉体的、精神的なアンテナをキラキラと立てて、受信発信を盛んに生き、今日も一日沢山のエネルギーを出し、受け取ったと思えるような日々を……そしてどんな事態に対しても、確信犯であって下さい。確信犯とは「わからないまま流される」のではなく、「意志をもって行ふ」ことです。失敗してもその方が傷は浅いし、次回の教訓にもなります。ほら、後に倒れるより前に倒れた方が、怪我も少ないでしょう？ スキーだって、思い切った前に体重をかけなくては、ブレーキだってきかないのです。

こういう前傾人生は、時間は永遠にある、と思うのんびりした感覚からは生まれてきません。あせるには早すぎるかもしれないが、でもこれからは、少しあせって下さい。

欲張って二つも三つもの人生を生きたいと思う人は、小説を読めばいい。その気になれば、一年という時間、けっこう使いがあります。

## 人生の目減りが始まる

作 家 高 樹 の ぶ 子

人は八十近くまで生きるように  
なりました。八十年とは一世紀の  
五分の四です。大変な長さです。

わたしはすでに、一世紀の半分  
近く生きてきましたが、まだ三十  
年ばかり残っているのです。

こんなに長く生きる時代に、二  
十歳そこそこ、つまり全人生の四  
分の一しか生きてきていない皆さ  
んが、社会に押し出され、ひとり  
で泳いでいなくてはならないの  
ですね。

でも、残された人生は、六十年  
か……。  
え？ この場合「残された」と

いう表現は適当ではないって？

ところがそうでもないのです。

社会にとび出す前の、つまり就  
学期は、人生は未来のあなたに永  
遠に光っていると思えます。しか  
し、いったん社会人になったと  
き、人生は有限な、惜しんで使う  
べき時間に変化するのではないで  
しょうか。

そう感じさせるものは、まず世  
間の常識です。

そろそろ結婚した方が？ とい  
う周囲や自分の内なる声。結婚し  
て子供を産めば、子供が人生を刻  
んでゆきます。勿論、結婚したり



高樹のぶ子氏略歴

1946年、山口県に生れる。東京女子大学短期大学部を卒業。出版社に勤務。現在福岡市に在住。  
1980年、「その細き道」を「文藝界」に発表、創作活動  
を始める。1984年、「光抱く友よ」で芥川賞を受賞。著書  
に小説「波光きらめく果て」「ブラックノディが棲む樹」  
「時を青く染めて」「哀歌は流れる」「サザンズコール」  
「これは機軸ではなく」「彩雲の峰」「湖底の森」「銀河の  
雫」エッセイ「熱い手紙」「フラッシュバック」等がある。



▲卒論発表で質問に答える岩永さん

# メイキングオブ卒業論文

— 児童学科・岩永圭子さんの場合

卒業論文は一年間を費やして完成させる大学四年間の集大成。テーマを決めて自分でそのテーマについて研究していく。大学での学習は、単に知識を得るだけではなく、「研究の仕方」のような応用力を学ぶことでもある。

## テーマの行き着く先

卒業論文は、まずテーマ決めから始まります。六月には仮テーマを提出しなければいけません。岩永さんは、最初「CMの映像による子供の影響」という仮テーマを提出しましたが、具体的な研究方法の検討に取りかかると、壁にぶちあたってしまいました。そんな時、帰省先の佐賀県武雄市で、郷土芸能の「浮立」に出会ったのです。さっそく卒論担当の三好教授に相談したところ、「浮立」をテーマにしたほうが、ずっと興味深い研究ができるのでは、という助言をいただきました。

八月、岩永さんのテーマは「武雄の郷土芸能『浮立』」ということで決定しました。

## 卒論提出

さて、テーマが決まったら、いよいよ研究開始です。まだ、テーマの方向性が見えてこない岩永さんは、とにかく数多く「浮立」を見ようと、地元へ帰り、お彼岸に演じられる、色々な「浮立」をビデオや写真に収録。それと同時に知識を得るために、図書館廻りをしたり、区長さんの家にまで出かけて、直接話を聞いたりもしました。

十一月に入ると、今まで集めた写真やビデオを中心に「楽譜」の作成に入りました。ビデオを取った時点ではまだ「浮立」の何を研究するのか決めてなかったため、必ずしもカメラの視点は演奏者に合っているわけではありません。かすかな手掛かりを頼りに何時間もビデオをチェックして、太鼓のリズムを書きおこしていきます。譜はビデオの音をカセットに移し、肉声に近い音をピアノで拾っていきます。出来上がった譜の楽譜についている七個ものマークがその苦労を物語っています。また、笛の楽譜は実際に演奏してもらいながら、再現していききました。

十一月末からまとめにはいり、提出期限ぎりぎりに岩永さんの卒業論文は完成しました。ワープロで書き上げられた論文は写真もふんだんに使用しており、とても読みやすいものになっています。こういった提出する形にするのも実は大変な作業で、締切前は夜中の3時くらいまで作業が続いたそうです。

## 最新設備を使った発表

これらの研究の最後の仕上げとして「卒論発表」が残っています。時間は5分間。それを発表するの、頭の痛い問題です。岩永さんは従来のスライドやOHPを使った発表にこだわらず、内容をわかりやすく表現するために、ビデオを使った発表を考えました。自作のビデオに加えて地元有線テレビ局にも映像を提供してもらい編集しています。

二月二十二日、編集したビデオを流しながらの発表。「とても緊張した」と言いながらも、大きな拍手を浴びて満足をうでした。

## 卒論担当教員から

児童学科 三好 隆三 教授

岩永さんの卒論で評価する点は自分の住んでいる身近な地域からテーマをみつけ、さらに、漠然と郷土芸能を紹介するのではなく、「音楽」という視点を見つけたことです。内容的には、いままで口述でしか伝えられなかった浮立の音楽について、楽譜や運指表といった目で見て理解しやすいものを作りあげたことを評価します。もちろん、微妙なニュアンスなどは、今までどおり口伝えのほうがいいと伝わるでしょうが、この芸能を伝承していく時に、絶対音階で表された譜の楽譜や、「ヒヤリ」「ヒヤイロ」等の言葉で表されている笛の演奏を、指のポジションで表した運指表など、岩永さんの研究は、よい助けになると思います。

## ▼再現した笛の運指表

～笛の押さえ方～

○＝開 ●＝閉 ●H＝叩いてふさぐ ○H＝叩いて開ける

| 7(6)5(4)3(2)1                        |          | 7(6)5(4)3(2)1 |          |
|--------------------------------------|----------|---------------|----------|
| ド<br>ン<br>ボ<br>ー<br>ー<br>ー<br>ー<br>ー | ●●○○●●●● | 7H            | ●●○○●●●● |
|                                      | ●○○○●●●● |               | ●○○○●●●● |
|                                      | ●●○○●●●● |               | ●●○○●●●● |
|                                      | ○●○○●●●● |               | ○●○○●●●● |
|                                      | ●○○○●●●● |               | ●○○○●●●● |
|                                      | ○●○○●●●● |               | ○●○○●●●● |

## 就職活動レポート

# 「わたしにも言わせて下さい」が面接者に効いた

経済不況の影響をもろに受けた平成五年度の就職戦線。卒業していく岡山田紀子さん（家政科生活文化コース）に、就職活動の苦労を聞いてみた。



岡山田紀子さん

憧れだけではキケン

岡山さんが学生課を訪れたのは一年生の終り、二月頃からの頃は、音楽に関わる仕事に就きたいと強く望んでいた。

「相談に行く」と、もう少し現実的な活動をしなさいと、いつも言われました。就職が厳しいときだからひとつの業種に絞るのは危険だとの判断だったんですね。」

しかし、この頃は自分の気持ちを買いたいという思いが強く、六月には東京まで、レコード会社と音楽関連の会社の就職試験を受けに

行った。ところが、この採用試験はどちらも採用十名くらいに對して応募者はざっと千名以上。しかも受験者は、誰でも知っている東京の大学の学生ばかり。岡山さんは、「や」と現実を目ざめました」と語る。

学生課で顔を覚ええられる

岡山さんは、この頃からほとんど毎日学生課を訪れる。担当の浅見係長は「この頃からやっと（岡山さんに）話を通じるようになりました。本当の意味での岡山さんの就職活動が始まったのは、七月

下旬からだと言っていたよいでしょう」と話していた。

この後の彼女の活動はめざましい。求人票のチェック、資料室での資料探し、学生課担当との面談、そして会社訪問。試験を受けて失敗した会社は、NTT九州移動通信、デサント、日本テレコムなど十一社。書類審査で不合格になった会社や訪問だけの会社を含めると、二十社以上になった。

さすがに八月中旬頃になると、半ば諦めの気持ちもわいてきたがそれでも学生課通いは続いていた。そして、十一月のある日、掲示

板で見つけたのが三菱電機ビルテクノサービス。会社訪問をして、「ここしかない」と決めた岡山さんは、学校推薦を申し込んだ。「毎日のように顔を出すので、何とかなってくれば、この期待もあって」と、浅見係長。無事推薦を受けて試験に臨んだ。

受かりたい気持ちでいっぱい

「何回受けても試験刷れすることはありません。この時もしつかり緊張していました。」

健康診断、適性検査、性格テストが終わっていいよいよ個人面接。先に終えた学生の話では、志望動機や自己PR、時事問題などを聞かれたとのこと。ところが、岡山さんは何も聞かれない。このままでは危ないと思って「ひとこと言わせて下さい」と、先輩取材で聞いたことや仕事に対する気持ちなど、この会社に入りたいという思いを述べた。

## 涙のクリスマスライブ

十二月二十四日のクリスマスライブ。内定通知書を手にしたときは、思わず涙がこぼれてきた。

「暑い夏の日にはブレザーを着て会社訪問をしたこと、絶対大丈夫と思った会社が駄目だったこと、このことが頭に浮かんだんですね。」採用の決め手は何だったのか。

「とにかく熱意があつて元気のいい子を探りたかったそうです。岡山さんは、面接の最後の最後でやった自己アピールがきいたんですね。就職活動を振り返って思うことは、もっと広い視野で会社を探せばよかったこと。それと学生課のアドバイザーをよく聞くことですね。卒業生の情報や会社から得た情報などを教えてもらえてほんとうに助かりました。」

後輩へのアドバイスとして、岡山さんはこうしめくった。

## 健康生活のススメ (14)

食物栄養学科・食物栄養科 教授 樋口 公男



「人の命は我にあり、天にあらず。人の命はもとより天にうけて生まれ付たれども養生よくすれば長し。養生せざれば短かし。然れば長命ならむも、短命ならむも、我心のままなり」—東洋の科学者貝原益軒は1630年、福岡に生まれ、84歳のとき養生訓を書きあげました。中村学園大学の近く、金龍寺に彼の墓があります。「身をたもち生を養ふに、一字の至れる要訣あり。その一字なんぞや。畏の字なり。」

20世紀の前半、人間の栄養学は、主として諸栄養素の役割について研究しました。そして第二次世界大戦後、研究の主流は食物と慢性疾患（心臓病、がん、高血圧、肥満、骨粗鬆症、糖尿病など）の危険因子との関係に向かいました。

21世紀には、あらゆる人間の科学と技術の中に、倫理がよみがえってくると思われまふ。もともと健康は価値概念であって、幸福と同様にはっきりと定義しにくいものです。数千年古来、国さまざま、人さまざま、多様な食べ方と健康法が提唱されてきました。科学者益軒は、食物と運動と養生の3つを説きました。繰り返すと「身をたもち、生を養ふに、一字の至れる要訣あり。その一字なんぞや。畏の字なり」と換言すれば自然をおそれる、自然との調和、バランスということです。

「如何に生活すべきか」は、私のセミナーのテーマ・キャッチフレーズでした。ラスキンの句 Truly, the man Who does not Know when to die, does not Know how to live. 如何なるときに死すべきかを知らずんば、同くんぞ如何に生活すべきかをを知るを得ん——これを私の健康の倫理としています。







# CAMPUS TOPICS

| 爆発するパワー<br>今泉助教授が個展開催                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | いきいき学生をサポート<br>大学同窓会が活動資金を提供                                                                                                                                                                                                                                                                    | 事業部が<br>駅前4丁目に<br>レストランをオープン                                                                                                                                                                                                                                                                       | アイデアお芋<br>料理コンテストで<br>管専の中川さん入賞                                                                                                                                                                                                                                                                 | 世界的なピアニスト<br>館野 泉氏の演奏に<br>ウツトリ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 学園祭の収益金を<br>普賢岳災害救援に寄付                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>児童学科の今泉憲治助教授が12月21日から26日まで、福岡県立美術館で作品展を開いた。タイトルはELEPHANT ACCIDENT (象の災難)。美術館の広い空間が、強烈な色彩の“象”で埋めつくされた。</p> <p>今泉助教授は、シリーズで不条理に自然を破壊する人間を告発してきた。</p> <p>目に飛び込んでくるような真っ赤な象は、大地に崩れ落ちた巨体から、鼻を突き伸ばし、最後の雄叫びをあげているように見えた。その迫力は、「どぎつい赤一色の布製の巨大な象。作品から迷いが消え、確かな造形力と勢いを感じた」(朝日新聞)「体力の限りを尽くしてぶつかることが、エネルギーの爆発を生んでいる」(西日本新聞)との評にあるように、すさまじい迫力の展覧会であった。</p> | <p>本誌第16号でお知らせした、大学同窓会が在学生の活動を支援する「生楽生」の平成6年度募集要項が発表された。</p> <p>自分自身を高め、学生生活をより楽しく、充実させたいと思っている大学生なら誰でもOK。</p> <p>遊び感覚が高く、それでいて自己の可能性を拓けるもの、他者の役にたつ企画をどんどん考えて応募して欲しい。希望者は企画レポートを2000字以内にまとめ、4月10日までに大学同窓会事務局へ提出すること。</p> <p>総額は50万円。レポート審査(第一次)と面接で選考する。採用は若干名。</p> <p>詳細は同窓会事務局(東2号館2階)まで。</p> | <p>中村学園事業部の新しいお店「和気愛愛」が、博多駅前4丁目サンライフセンタービル地下1階にオープンした。</p> <p>昼はレストラン・夜はモダンな居酒屋という新しいタイプのお店で、内装にも工夫を凝らしてある。清潔でファッショナブルな設計が自慢だ。また、メニューもさつまいものチーズ焼き480円、キノコとベーコンのホイル焼き480円、お好み焼550円、山いもの鉄板焼580円、一口和風ステーキ680円、手造りピザ700円など、リーズナブルなものからワンランク上のものまで、若い女性の嗜好を考えて揃えてある。</p> <p>博多駅から徒歩で約7分。ぜひ一度お立ち寄りを!</p> | <p>大学管理栄養士専攻2年生の中川友香さんは、鹿児島県主催の「本場薩摩のさつまいも」アイデア料理大募集に応募したところ、みごとに優良賞に選ばれた。</p> <p>中川さんが考案したのは、中華料理のゴマ団子にヒントを得て作った「さつまいもゴマ団子」。</p> <p>一次の書類審査をへて行われた二次実技審査でも、審査員に好評を博した。</p> <p>賞品は「鹿児島ふるさと宅配3回分」で、特産品の奄美メロンなどが届くそうだ。</p> <p>「さつまいも1個でもいろんな調理法があるんだなって思いました。調理実習で学んだことが生かせました」と中川さんは喜んでいました。</p> | <p>児童学科および幼児教育科の学生を対象にした学内演奏会が、11月29日に音楽館多目的ホールで開催された。</p> <p>国内外の一流の音楽家を招いての演奏会は、これで12回になる。</p> <p>今回は、東京芸大を卒業後、活動の拠点をフィンランドに移し、世界中で活躍中のピアニスト、館野泉氏を迎えた。</p> <p>館野氏は、バルムグレン作曲「3つの夜想的情景 Op. 72」、シベリウス作曲「村の教会(5つの特徴的な印象より) Op. 103-1」などを、約1時間にわたって演奏され、聴き入っていた学生は大きな感動を受けていた。</p> <p>演奏終了後は、音楽活動にまつわるいろいろなエピソードをユーモアたっぷりに語られ、氏の人気の一端をみる思いであった。</p> | <p>学園祭実行委員会は、昨年11月の学園祭(霜月祭)で行ったガレージセールの収益金255,385円を、朝日新聞社を通じて雲仙普賢岳災害の救援援助金として寄付した。</p> <p>今回は大学周辺の住民の方々にも不要品の提供をお願いしたところ、驚くほどたくさんの物品が寄せられ、目標額の20万円を大幅に上回る売上げとなった。</p> <p>実行委員会チャリティーパート長の田中裕美子さん(児童学専攻2年生)は、「とかくうるさがられるだけの学園祭ですが、人の役に立つ活動もしているんですよ、ということを知ってもらえただけでも良かったと思います。協力して下さった皆さんに感謝して、また来年も頑張りたいと思います。」と語っていた。</p> |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

## 海外青年協力隊員 ヨコ・フジカケの パラグアイ通信 (3)

暑い! パラグアイの秘境と呼ばれるチャコへととう着いた。首都アスンシオンから北西五〇〇kmに位置することは、人口三百人の小さな村。これからここで十日間生活するわけだが、正直なところ不安は尽きなかった。

ここは今、乾期に入っていて水が全く無い。この村の地下水は塩分を五割以上含んでいて、飲み水はもちろん農業や牧畜にすら使用できず、村人は雨水をドラム缶や瓶に集めて、それを飲料水にしている。村に着いた日は、ドラム缶の底に十二、十三cmの水があるだけだった。

チャコ滞在中は、当然のことながら一度も水浴びをすることができなかった。午後には四〇度を越す灼熱の太陽のもとを、毎日講習会のために八kmの道を大汗をかきながら歩くと、からだは砂ぼこりをきれいに張りつけてしまう。溜池には緊急用の水が少しはあるのだが、それは大切な大切な非常用飲料水なのだ。体なんか洗ったらバチがある。それでも滞在中、顔を二度だけどろり一杯の水で洗った。

水が無くても、体が洗えなくても、わずかな食べ物しなくても、豊かな家族の愛に、隣人愛に、そして笑顔に満ち溢れたこの村は、もしかしたら楽園なのかもしれない。

東京に住んでいた頃、毎日一時間半満員電車でゆられて通勤し、帰ったら一人でぼつんと夕食を食べていた頃の私と、いったいどっちが幸せなんだろうと考えこんでしまった。

チャコを去る前日、私は村人の家を一軒一軒訪ねて回った。村人は歓迎してくれて、大切な命の水でテレレというお茶をたててくれた。今私がお茶を飲むと彼らの水が無くなるのは、いくら私でも分る。とても飲めないのに丁重にお断りすると、「嫌いなのか?」と聞かれ、「いや、好きだ」と答えると、「じゃあ飲め」と言われて、結局飲み干してしまっ

夕日が沈む頃、一人の女の子がやって来た。生徒の中で一番若い子、ナチだ。家が遠くて訪ねられなかったのだが、向こうからやってきた。「どうしたの

暑い! そんな状況の中で、十日間の講習会は始まった。小さな村にもかわらず二十七名の婦人達が集まってくれた。毎日意欲的に洋裁や編み物を学んでくれ、町で教えている生徒たちよりも、ずっとやる気がある。お昼休みにしようと思っても手は止まらない。私の方が暑さで参ってしまい、へたりこんでしまったほどだ。

また、調理講習会は水が無いので中止しようと思案すると、「いや、今日のために節約してきたんだ」と、大切な水を使わされてくれた。

講習会が終わって部屋で横になってみると、子どもが食事を運んできた。どうも、どこぞかの婦人の子どものらしい。少ない食料の中からわざわざ……と思うと、涙が出る思いだった。感謝して頂き、お皿を返す。ところが、滞在中毎日どこかしらの家が食事を運んでくれて、本当に恐縮したものだ。

この十日間の滞在は、私にとってかけがえのない体験をさせてもらった素晴らしい日々だ。



▲洋裁の講習会の様子

か」と聞くと、私に一手紙を持ってきた」と言うのである。講習会が終わるのが悲しくて、眠れない日が三日続いたという。私は胸が締めつけられる思いがした。たった十日間だったが、この村に住み、一番仲良くなった子でもあり、ここまで慕ってしてくれた嬉しさと私の形見という意味で、彼女に何かを贈りたい衝動にかられた。手元にあった日本から持ってきたアルミの筆箱を手渡し、「これ上げるから、頑張ってください」と言ううと、しっかりと頷いた。

南十字星を見ながら小一時間話をし、「あまり遅くなるとお母さんが心配するから」と言っ、帰宅を促した。

翌朝村を去る時、ナチは早起きをして見送りにきてくれた。トラックで去る私には、砂塵の向こうに、いつまでもいつまでも手を振っている彼女がゆらゆらと見えていたが、やがて涙がかすんで見えなくなってしまう。

(昭和五十九年三月、家政科卒業)



もっと知りたい



## 明るい声がエネルギーになった。 幼稚園教育実習

無限の可能性をもった元気一杯の子供たち。幼稚園は、その日その日がとても変化に富んでいる。毎日が新しい発見の連続だ。

素直な心の可愛い子供たちと共に学び、共に成長していく幼稚園の先生の魅力って何だろう。

大学児童学専攻四年生松井徳子さんと短期大学幼児教育科二年生の高野淳子さんに、二週間の教育実習で得たものを語ってもらった。

〔松井さんの実習ノートから〕  
第一週目は、紙芝居や素話などの部分保育と、歌唱指導の一コマ保育を行う。指導の先生のやり方を学んだり、担当する子供たちの名前や性格を把握したり、実習の基礎固めの大事な期間である。

〔初日〕公園での園外保育。大きな福岡ドームを目の前に、秋の自然に親しみながら、思いっきり遊ぶ子供たちは、満足そうな表情。

でも、松井さんは早く子供たちを覚えようと必死だった。コミュニケーションの糸口は、まず一人一人の顔と名前を覚えることだ。〔四日目〕今日は、「小さい秋みつけた」の歌唱指導をする。時間配分ばかりに気をとりすぎて、全体的なまとまりに欠けていたようだ。

〔七日目〕泥んこになって芋掘りに熱中している子供たちの姿を見ながら、いろんな経験を積ませることが、子供の成長につながっていくんだなあと実感する。  
こうして、松井さんは忙しい毎日を通してながらも、自分の指導の仕方と子供たちの様子を、少しずつ冷静に見つめることができるようになってくる。



園児たちと一緒に（高野さん）

行動できるようになる。子供への言葉かけの大切さを知る。

〔最終日〕今日で最後かと思うと、気合が入る。みんなに声をかけ、おもいっきり遊ぶようにした。帰りの時間になり、「今日でおいまいだよ」と別れの挨拶をする。「先生、今日で終わり？」

「また遊びに来てね」と言葉をたくさんかけられ、本当に嬉しかった。

〔高野さんの体験〕  
ある日の放課後、掃除をしている私に「先生、僕ね、この幼稚園のおもちゃはみんな、夜になると何かに変身すると思うの」と、耳元で話をしてくれました。この子は日頃、私の言うことをちっとも聞かないので、ちょっと手を焼いていたんです。

でもすごく夢があって、想像力豊かだったんですね。子供って本当にいろんなものを秘めているんだなあと感心しました。

少しでも子供の心に残る実習をしようと思っていました。が、いざ、始めてみると思うように事が運ばず、失敗する度に、先生になるのをやめよう、と考え込みました。

た。  
でも、子供たちに「明日も遊ぶうね」って声をかけられると、頑張るぞ、という気持ちになりました。子供の笑顔を見ると忘れてしまふんです。

ただ、「子供が好きだから」というだけでは勤まる職業ではないようです。細かい配慮や機敏な行動などいろんなものを必要とします。現場の先生から、「保育者は日頃から色々な経験をし、多くのことを感じ、また、挑戦していくことが大切」と、アドバイスを頂きましたが、本当にそのとおりだと思いました。

◆ ◆ ◆  
二週間の幼稚園実習は、二人にとってかけがえのない貴重な体験になったようだ。

松井さんと高野さんは保育者の道に進むことを選び、四月から二人とも実習した園に就職が決まっている。一生懸命取り組んでいた姿勢が認められたようだ。

これからの抱負について、それぞれ、次のように語ってくれた。

「私の妹も、現在幼児教育の勉強中です。同じ道を目指しているの、お互い何でも話し合い励まし合いながら、子供たちと共に成長していけるように頑張りたいと思います。」（松井さん）

「早く自分で納得いく保育ができる素晴らしい保育者を目指します。」（高野さん）

## スケジュールは超多忙

### 保健所実習

地域住民の健康管理に、行政の立場からさまざまな活動を行っている保健所の栄養士さんの仕事ぶりについて、三人の実習生が語ってくれた感想は、「とにかく忙しい」と一致していた。

管理栄養士専攻の四年生になると、公衆栄養学実習として保健所実習がある。管理栄養士の活動分野である栄養行政業務についての認識を高めるためだ。

期間は五日間。この間に妊婦や乳幼児、成人に対する栄養指導、あるいは栄養教室における集団指導といった活動を体験する。

熊本西保健所で実習を行った吉田由美さんに、実習ノートを見せてもらった。

第一日目（午前）妊婦健康相談・糖尿病予防教室見学（午後）三歳児検診の見学

第二日目（午前）一歳六カ月児検診の試食づくり（午後）すこやか熊本セミナー見学

第三日目（午前）一歳六カ月児検診の見学（午後）重点健康相談の見学

第四日目（午前）基本健康診断の見学（午後）離乳食教室の見学  
こうした業務は、ほとんどの場合、栄養士だけでなく医師や保健婦もそれぞれの立場から関わって実施される。しかし、栄養士は各保健所に一人しか配置されていない場合が多く、きわめて多忙な職種と言える。従って、実習生は教

えてもらう時間といったものは、先ず無いと思っておいたほうがよいだろう。聞きたいことがあったら、栄養士さんの空いている時間をうまく利用して聞くことが肝心だ。

一口に栄養士といっても、病院栄養士と保健所の栄養士とは、全く業務内容が異なる。病院の場合は、個々の患者に対して、疾病の状態に合わせた個別指導を行うが、保健所では、集団健康診断などで要注意と診断された人や乳幼児・妊婦に対するアドバイス、および健康フェアなどによる地域住民一般に対する意識啓蒙活動が主になる。

「健康フェアに参加してみると新聞の切り抜きをもってきて、健康にいいという『民間療法』を鵜呑みにしている方を見かけました。情報の選び方を教えるのも、保健所の仕事なんだなと思いました」と語るのは山本香織さん。

また、一木千代さんは、「住民に対する栄養指導・栄養改善の方

## 子どもの心(14)

児童学科・幼児教育科  
助教授 今泉 憲 治



「これドザエモンなんだよ」と、幼児が自分で描いた絵を見せてくれます。なるほど、画用紙にはれて死んでいる人間のようなものが描かれています。

この子はずいぶん変わった個を持っているナ……と感心する間もなく、次から次へと「ドザエモン描いたよ」「これドザエモンだよ。」……と、土左衛門を描いた子供がやけに多いのです。

その日、子供たちに与えた絵のテーマは「好きなもの」でした。最近の子どもは随分暗いものが好きなんだな」と不思議に思い、「土左衛門はどこで見たの？」と尋ねてみたら、子どもたちは一斉に、「テレビで見たヨ、テレビ、テレビで。」

そういえばテレビニュースで、事故で水死した人間の画像が映っていたような気がします。この悲惨な光景は、多くの子どもたちの心にも強いインパクトを与えてしまったものだなあと心を痛めました。私が、画学生でお絵かき教室の先生をやっていたころ、幼稚園での1コマです。

その日から数日後に判ったのですが、本当はこの「ドザエモン」とは、当時、テレビ放映が開始されたばかりのアニメーション「ドラえもん」（藤子・F・不二雄作品）だったのです。

まったく子どもと付き言うのって、シゲキ的で楽しい発見が多いものです。



# Good-Bye and See You Again

## 退職される 方々からの メッセージ

### 三陽中学・高校への期待

法人本部

学事部長 友田

實



昭和六十年四月、三陽高校開設準備室長に就任して一年、翌年四月開校してから六年間、教頭として新設高校創りに当りました。当時理事長であった中村久雄現顧問も私も、男子高校であること、福岡の私学では二十年ぶりの新設校であること、生徒急増期である

ことなどから、優秀な進学校を創ることを目標に学校のPRと生徒募集に当りました。ところが、集ってくる生徒のレベルは私達が考えていたものと程遠く、学力向上のための教科指導よりも、毎日の生徒指導面に神経を使う状況でした。このことが尾を引いて、開校時に私達が目標としたところには、まだ達していないのが現状です。

六年間教頭を勤めた私自身、その間に何とかできなかったのか、悔恨の念で一杯です。新設校創りは十年かかるといわれます。三陽高校もあと二年で十周年、ここ二・三年で学校の評価を固める大事な時期になります。先生方に地道な努力をお願いしたいし、学園全体で暖いご支援をお願いいたします。

合計九年間、二代にわたる理事長をはじめ学園の皆様方に、大変お世話になりました。今後私学が厳しい時期になりますが、教職員の皆様方のご健勝・健闘と、中村学園の益々のご発展を祈念して、退任の言葉といたします。

### 健康増進の仕事とともに

児童学科・幼児教育科

教授 松本 壽吉



私は昭和六十二年四月本学に奉職し、この三月末で退職します。退職に当たり、七年間にかかわってきたことを思いおこしております。

ちょうど私が本学に来た時、厚生省から「これからの栄養士は、国民の健康増進を総合的に指導できる人材であって欲しい」との要請がありました。そこで直ちに、全学を挙げて健康増進を総合的に研究するためのプロジェクトが組織され、共同研究の代表者としてお世話をすることになりました。私は、以前から健康増進の指導

### ありがとう皆さん

家政科

教授 井上 馨



この三月三十一日で六十八歳の定年退職となります。チョーク人生とでもいいいますか、教師生活を始めて四十三年、そのうち中村での生活が二十三年にもなっているのに気がついて、われながら驚いています。今までは前ばかりを見てつめて走り続けてきましたが、いよいよ定年間際になって立ち止まり、ふと後を振り返ってみると、教室で、研究室で、あれこれの思い出がよみがえってきます。

「法学」・「家族関係」の講義に興味をもって、理解してくれた学生の皆さんに、今あらためて感謝しています。一般教育から家政科に

### 人生、夢のひととき

児童学科・幼児教育科

講師 森山 雪子



働きながら勉学するきびしい看護教育の学校から、恵まれた環境の大学・短大に来て十七年の歳月は、夢のように過ぎてしまいました。張り切って教育に研究に努力するつもりでしたが、就任の年に夫が発病し、死にいたるまでの八年間の看護と、それに伴う私の糖尿病の発病で、無理のきかない体となりました。研究は、「努力の上に」の努力がでずに、全く不本意でした。しかしそれらは、教育に大いに役立たせることができました。

悲しい時に優しい教職員や学生に支えていただき、どんなにか嬉しかったことでしょう。他大学の先生方から、「お宅の学生さんは大変評価が高い。きつと教育がよろしいのしょう」といわれます。「それは家庭教育がよろしいのしょう」と謙遜しま

### 学生と共に十年

児童学科・幼児教育科

講師 谷口 憲由



三月末日で、中村学園を退職することになりましたが、今日までご指導・ご交誼をいただきまして皆様から御礼を申し上げます。就職生活四十八年間の最後を、中村学園大学で終ることができましたことは、私にとりまして大変意義深く思っています。

学園生活十年間は、不安と期待と喜びが錯綜する日々であったように思います。在任中は幼児・児童教育を指向する学生諸君と教育の問題を考えてきました。中でも教育実習を中核とした事前、事後

### 一番長い中村学園勤務

熱すべし、老いるべからず

児童学科・幼児教育科

講師 三谷 勝彌



四十八年間の教職生活で多くの業務を経験しましたが、中村学園での十年が一番長く、数々の思い出が増えた事を感謝しています。雑草の荒地を授業の合間などに耕して栽培観察園として活かし、焼き芋の工夫などをしたこと。講義中の脱線や雑談は教師の私語であると分ったこと。最後の講義や

の真剣な取り組み・積極的な授業への参加は私の脳裡に強く焼き付いています。またゼミ生の意欲的な研究活動や年間に数回行う社会探訪、地域めぐりなど、和やかな交流は忘れることはできません。これらの諸活動は、情性に流されようとする私に活力を与えて、支えてくれたものと回顧し感謝しています。

最後になりますが、学園の発展と皆様のご健康を祈念いたしますと共に社会の第一線で活躍されている卒業生皆様のご発展を念願し、ご挨拶といたします。

### 戸惑いと驚きの七年

家政科

講師 加島 シツエ



毎日が数字との戦いの厳しい流通業界から、一変して学園へ。企業で長い間採用と教育を担当していたので、中村学園と無縁ではなかった。マナーの良さでは定評の女子高生、四年間学んだ食物栄養の基礎を、百貨店の食料品を通して消費者にアドバイスしたい、と言いつける学生は、私たち採用担当を大いに喜ばせたものだった。

縁あって昭和六十二年から秘書演習の授業を受け持っているが、学園では戸惑いと驚きの連続。時代の推移、体質の違いとはいえ、

を五回しましたが、先輩がそれぞれの場で活躍していることを耳にするのはこの上ない喜びです。また、学園の施設設備の充実もめざましく、最初の研究室と比べ現在のそれは快適でもったいない思いでした。その中で専門分野の研究に打ちこんでいらっしゃる大学人の姿に強い刺激を受けながら過ごせたことは有難い事でした。最後に二十一世紀の主役となる学生の皆さんと教職員の皆様のご健康を心からお祈りしますと共に中村学園のますますの隆盛を念願し、期待いたします。

何となく冷たい雰囲気、異なる価値観、加えて学生のマナーの悪さにも驚かされ、たえずこれで良いのかなと自分との戦いに悩みながら七年が経ってしまった。次代を担う若い人たちに何か役に立てばと、私の経験をもとに努力はしたが、成果は充分ではなく申しわけない思いである。

平成六年度は非常勤で授業の一部を担当させて頂くが「学ぶとは心に誠実を刻むことである。教えるとは共に希望を語ることである」の言葉をかみしめ、悔いのない日々になりたいと思っている。



# "食"と"農"をむすぶ

ことをテーマに



助手 馬込 明子  
助手 吉田 紀子

栄養士の仕事と食品は、切っても切り離せない関係にあります。食品を組み合わせて献立を作成し、栄養価を計算し、調理して、喫食者に供します。この一連の業務に関連する専門的な教科はいろいろと勉強するのですが、きゅうりやかぼちゃはどんな花が咲くのか、大根やかぶはどのようにして育つか、ということとはほとんど知りません。

健康であるための食べ方や食品の組み合わせ方を考えるとき、農作物のできる過程や産地のこと、あるいは流通機構などを知らないというのは、何か片手落ちのような気がします。

食と農をむすぶことをテーマにして、私達の研究室では平成元年から、福岡県粕屋郡内の農業後継者との交流会を続けていま



す。その中で、一昨年、昨年と後継者と農産物をつくるという経験をしました。

きれいに整地された五アールの畑に野菜の苗や種を、後継者の方々の助言を受けながら植えるのですが、最初は、その広さに気が遠くなる様な思いでした。一口に

れて植えました。植えつけが終わると、次の週からまびきや草取りの作業です。こんなに抜いて収穫できるのかと思うくらいまびきを、大きく育ちのよいものだけを残していきます。最初は半信半疑だった私達も、大根やかぶが目に見えて大きくなっていく姿に感動して、歓声が飛び交う様になりました。そして、二カ月程の作業の成果で立派な野菜に成長しました。

日頃は、店頭で包装されたものしか見る事のない野菜。そんな、野菜を実際に苦労して植え、育てた作業過程の中で得られるものは、実際に収穫した野菜の収量以上に、私達の心の中に大きなものを植えたのだと思います。

病気の原因はその人の体質だけではなく、その人を取り巻く生活環境にも問題があります。それと同様、毎日食べるものを扱う人になるからこそ、その生活過程や流通機構などに興味をもち、食べ物の本来の姿を理解することが大切だと思っています。

今回の体験は、食べ物を理解するための扉の入口に立ったにすぎないものですが、このことが今後の私達の日々の生活に生かされる事を願うものです。これらの場を提供して下さい、懇切な指導を頂いた北筑前農業改良普及所の方々、農業後継者の皆様に感謝致します。

## おめでとうございます

### 福岡県私立学校教育功労者表彰



家政科 才田 真喜代 教授  
福岡県の私学の発展、向上に功績があったとして表彰。十二月三日、県庁において福岡県知事から表彰状と記念品が贈られた。



児童学科・幼児教育科 白木 静枝 教授  
福岡市早良区明るい選挙推進協議会副会長として公正な選挙活動推進に功績があったとして、十一月一日、早良区役所において区長から表彰状が贈られた。



食物栄養学科・食物栄養科 谷口 巳佐子 教授  
栄養士養成施設に長年勤務し、栄養士養成に多大な貢献があったとして、平成五年十一月三日付けで会長から表彰状が贈られた。



全国栄養士養成施設協会会長表彰  
栄養士養成課程を優秀な成績で卒業し、栄養士としての協働活動が表彰。三月二十三日、幼児教育科の篠木あずさんに表彰状が贈られた。



全国栄養士養成施設協会会長表彰  
栄養士養成課程を優秀な成績で卒業し、栄養士としての協働活動が表彰。三月二十三日、幼児教育科の篠木あずさんに表彰状が贈られた。



食物栄養科 田代美奈子さん

## 海外出張の記録

(氏名・職名 ①訪問国・期間②目的)

- ▽権藤 興志夫 教授  
①ベトナム(H・5 12/6-12/11)、シンガポール(H・6 1/30-2/2)、台湾・香港(3/8-3/12) ②(財)アジア太平洋センター理事長として、海外研究機関及び大学等訪問
- ▽原 孝之 助教授  
①ペラルーシ共和国(2/5-2/11)、アメリカ(3/1-3/9) ②国際共同研究打ち合わせ
- ▽伊藤 和枝 教授  
①オーストラリア(3/18-3/27) ②国際高血圧学会研究発表

## 女子高校バスケット部に市民スポーツ賞

昨年夏、高校総体連戦十四回出場で初優勝を飾り、国体でも女子の部で準優勝を果たした中村学園女子高校バスケットボール部が、福岡市から平成五年度福岡市民スポーツ賞を受賞した。

表彰式は三月四日、福岡国際ホテルで行われ、市長から表彰状や記念品の贈呈などが行われた。部員は表彰式のあと、篠原校長や石井監督らに伴われ、中村理事長を訪問。受賞の喜びを報告した。

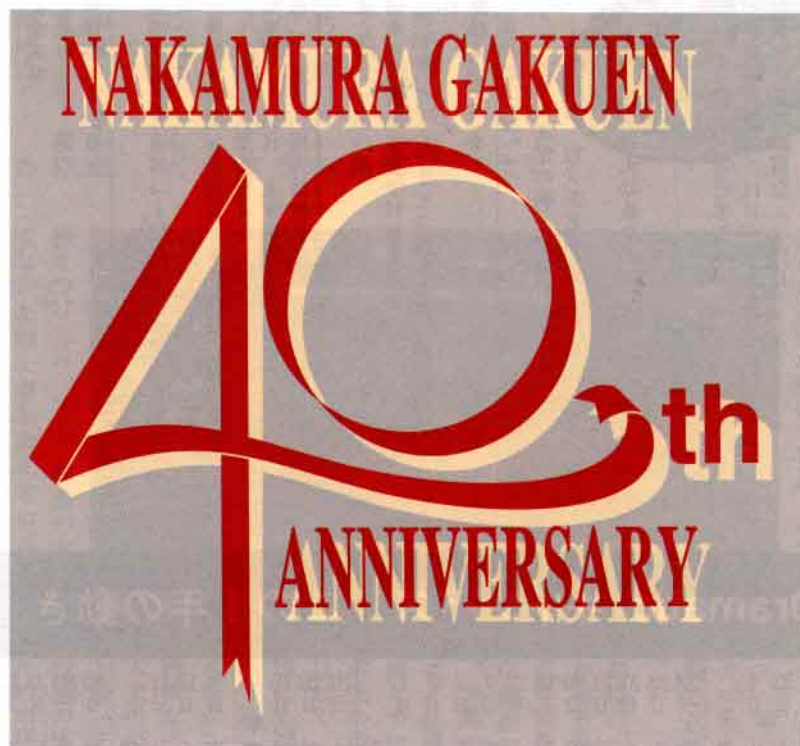
|        |     |                                               |
|--------|-----|-----------------------------------------------|
| 平成5年4月 | 6日  | 入学式(大学生三百三十六名、短大生八百五十八名、計千百九十四名が入学)           |
|        | 7日  | 新入生オリエンテーション                                  |
|        | 8日  | 大学院入学式(六名入学)                                  |
|        | 12日 | 大学・短期大学講義開始                                   |
|        | 15日 | 大学院講義開始                                       |
|        | 15日 | 新入生宿泊研修(22日)                                  |
| 5月     | 14日 | 学園創立記念式典                                      |
|        | 17日 | 学園創立記念日                                       |
|        | 22日 | リーダー研修会(23日)                                  |
| 6月     | 1日  | 中学校・高等学校教育実習(12日、大学食専4年)                      |
|        | 12日 | キャンパス公開                                       |
|        | 14日 | 学校給食・事業所実習(19日、大学食専・管専3年)                     |
|        | 14日 | 施設実習(23日、大学食専4年)                              |
|        | 14日 | 附属幼稚園実習(26日、大学食専3年)                           |
|        | 14日 | 幼稚園実習(26日、短大幼教2年)                             |
| 7月     | 1日  | 就職求人票公開                                       |
|        | 7日  | 栄養科学研究所・食物栄養学科共催講演会(講師・西銀オフィスサービスマネジメント 福田靖氏) |
|        | 14日 | 前期試験開始(8/4)                                   |
| 8月     | 1日  | 「語学研修とアメリカ文化の旅」出発(27日、大学11名、短大20名参加)          |
|        | 2日  | キャンパス公開                                       |
|        | 3日  | 施設実習(9/10、短大幼教2年)                             |
|        | 5日  | 本学主催進学説明会                                     |
| 9月     | 1日  | 保育所実習(11日、大学食専3年)                             |
|        | 6日  | 病院給食・事業所実習(11日、短大食物2年)                        |
|        | 8日  | 情報処理センター夏季講習会(17日)                            |
|        | 11日 | 公開講座(10/23)                                   |
|        | 14日 | 大学院第一次入試                                      |
|        | 20日 | 後援会地区連絡会開始(10/24)                             |
|        | 25日 | 小学校教育実習(10/23、大学食専3年)                         |
| 10月    | 2日  | リーダー研修会(3日)                                   |
|        | 4日  | 附属幼稚園実習(18日、大学食専4年)                           |
|        | 4日  | 幼稚園実習(18日、大学食専4年、短大幼教2年)                      |

## Dramatic キャンパス—この1年の動き

|        |     |                                           |
|--------|-----|-------------------------------------------|
| 10月    | 4日  | 保育所実習(15日、大学食専3年)                         |
|        | 18日 | 施設実習(13日、大学食専3年)                          |
|        | 18日 | 保健所実習(22日、大学食専4年)                         |
|        | 23日 | アジア栄養科学ワークショップ                            |
| 11月    | 1日  | 大学推薦入学選考                                  |
|        | 9日  | 大学推薦入学選考合格発表                              |
|        | 9日  | 第27回霜月祭(14日)                              |
|        | 21日 | 短期大学推薦入学選考                                |
|        | 29日 | 大学児童学科・幼児教育科学内演奏会(ピアノ 泉氏)                 |
|        | 30日 | 短期大学推薦入学選考合格発表                            |
| 12月    | 11日 | リーダー研修会(12日)                              |
|        | 18日 | 大学管専卒業研究発表会                               |
|        | 24日 | 講義終了                                      |
| 平成6年1月 | 10日 | 講義開始                                      |
|        | 20日 | 栄養科学研究所主催講演会(講師・東亜大学教授 松下雪郎氏)             |
|        | 31日 | 大学院修士論文発表会                                |
| 2月     | 1日  | 大学試験入学選考                                  |
|        | 2日  | 短期大学試験入学選考(食物・幼教)                         |
|        | 3日  | 短期大学試験入学選考(家政)                            |
|        | 7日  | 後期試験開始(17日)                               |
|        | 12日 | 大学・短期大学試験入学選考合格発表                         |
|        | 18日 | 就職に関する地区連絡会(講師・酒井田柿右衛門氏)                  |
|        | 20日 | 就職に関する地区連絡会開始(3/13)                       |
|        | 21日 | 保育所実習(3/15、短大幼教1年)                        |
|        | 22日 | 大学児童学科卒業論文発表会(23日)                        |
|        | 23日 | 大学食専卒業論文発表会                               |
|        | 28日 | 病院給食実習(3/5、大学食専・管専3年)                     |
| 3月     | 1日  | 大学院第二次入試                                  |
|        | 23日 | 大学院修了式(四名修了)                              |
|        | 24日 | 大学・短期大学卒業式(大学生二百四十六名、短大生八百四十名、計千八百八十六名卒業) |
|        | 25日 | 謝恩会                                       |
|        |     | 短大・児童教育科 博多全日空ホテル                         |
|        |     | 短大・食物栄養学科 ホテル日航福岡                         |
|        |     | 短大・家政科 ハイアットリジェンシー福岡                      |
|        |     | 短大・家政科 ホテルニューオータニ                         |



希望と未来へ、*Step by Step*



## 中村学園創立40周年

中村学園大学大学院

中村学園大学

中村学園短期大学

中村学園女子高等学校

中村学園三陽高等学校

中村学園女子中学校

中村学園三陽中学校

中村学園大学付属吉岐幼稚園

中村学園大学付属あさひ幼稚園

中村学園事業部

学校法人 **中村学園**